

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	胃癌手術における顕微鏡的切除断端陽性のリスク因子の検討
	研究目的	胃癌手術において摘出検体の顕微鏡的切除断端が陽性となった場合は、長期生存成績が不良となることが報告されており、胃癌手術では切除断端が陰性となる完全切除が求められる。しかし、肉眼的完全切除と判断された症例においても術後病理検査で切除断端に癌浸潤を認めることは少なくない。胃癌手術において顕微鏡的切除断端陽性となるリスク因子を後方視的に解析する。
	研究対象者	2000年から2017年までに当院で胃癌の外科手術を受け、治癒切除が行われた患者様
	研究期間	西暦 2020年 4月 20日 ~ 西暦 2020年 12月 31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	大島貴
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	消化器外科 胃食道
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	なし